

幼少よりピアノと作曲を祖父・平井康三郎に、チェロを父・平井丈一朗に師事。桐朋高校を経て、米国ロチェスター大学政治学科卒業。イーストマン音楽院、ピーボディ音楽院、ヤナーチェク音楽院ほかで、指揮法をD. エフロン、F. ブラウスニツ、O. トゥルフリーク、サー・コリン・デイヴィスの各氏に師事。1997年第6回フラデッツ・クラウロベ国際指揮者コンクール第1位。ヤナーチェク・フィル定期演奏会を指揮し大成功を収めるほか、東京フィルなど国内主要オーケストラに客演する一方、新国立劇場にて『フィガロの結婚』、『セルセ』、『イタリアのモーツァルト』を指揮。自作オペラ三部作（『かぐや姫』、『小町百年の恋』、『白狐』）は、ザルツブルク、ブラハ、キャンペラ、ロサンゼルスほか内外各地で50回以上上演され、2024～25シーズンには、オペラ『白狐』米国初演（ニューヨーク）を予定。2010年チェコ・ヴィルトゥオーゾ室内管弦楽団首席客演指揮者に就任。2012年ウィーン国立歌劇場にて鮮烈な指揮デビューを飾り、2013年同歌劇場に再登場、同年米国カーネギーホール指揮デビューが絶賛され、2014年ニューヨーク祝祭管弦楽団音楽監督・指揮者に就任。2014年、名門ソフィア・シンフォニエッタにデビュー、2016年プレヴェン・フィル定演を指揮していずれも成功を収めた。2017年5月、殿堂ウィーン・コンツェルトハウス指揮デビューで成功を収め、ウィーン・クラング・アンサンブル首席客演指揮者に就任。同年10月、バチカン市国サン・ピエトロ大聖堂にて自作アヴェ・マリアの指揮、ローマ教皇およびバチカン市国への献呈が特別に許されたほか、ローマ・トレ管弦楽団シーズン開幕定演デビュー。2019年ロッシーニ歌劇場デビューを飾り、2022年夏には、ロッシーニ管弦楽団、ローマ・トレ管弦楽団の各定期演奏会へ再客演し好評を博した。また、2019年より、『日比谷音楽祭』に企画プロデュースや指揮で毎年出演、2021年よりガルバホール・プロデューサーに就任し、『第1～2回西新宿音楽祭』を成功に導くほか、同年より、「平井康三郎声楽コンクール」を創設し毎年開催するなど、幅広い活躍が大きな注目を集めている。

<https://www.hideaki-hirai.com>

西条第九合唱団

一般公募より集まった、第九演奏会のための特別合唱団。10代から80代まで、幅広い年代が集まっている。第四楽章では、歓喜の歌を100人規模で声高らかに歌い上げる。



平井 秀明
Hideaki HIRAI
-Direttoted' orchestra-

伊予管弦楽団

愛媛にゆかりのある音楽愛好家たちによって2020年に結成。年1回の定期演奏会を松山にて行っているほか、各地で精力的に演奏活動を行っている。愛称“いよかん”

<https://iyo-orchestra.wixsite.com/home>

黒田 詩織 Shiori KURODA -soprano-



武蔵野音楽大学声楽学科卒業。同大学院音楽研究科修了。二期会オペラ研修所第59期マスタークラス修了。修了時に優秀賞受賞。2016年二期会本公演「フィガロの結婚」（宮本亜門演出）伯爵夫人役のアンダースタディとし抜擢される。サントリーホールオペラアカデミー第3期ブリマヴェーラコース修了。第31回練馬区新人演奏会オーディション最優秀賞受賞。同新人演奏会にて東京フィルハーモニー交響楽団と共演。2017年PMFヴォーカルアカデミーメンバーに選出される。公益財団法人さわかみオペラ芸術振興財団イタリア留学助成金奨学生として2019年に渡伊。2020年ブッチーニ・オペラ・フェスティバル主催公演「修道女アンジェリカ」にてヨーロッパデビュー。2022年ブッチーニオペラフェスティバルアカデミー、マスカニアカデミーにそれぞれアカデミー生として選抜され修了。第68回トッレ・デル・ラーゴにて行われたブッチーニフェスティバルの本公演《つばめ》に出演。イタリアのジェノバボルツァネート、またパルマのコロルノにて《ジャンニスキッキ》チェスカ役で出演。第16回“Cappuccilli -Patanè-Respighi”国際音楽コンクールにて、審査員特別賞受賞。国内では《椿姫》ヴィオレッタ役、《カヴァレリアルスティカーナ》ローラ役、《愛の妙薬》アディーナ役、《コジファントゥッテ》フィオールディリージ役など多数出演。二期会会員。

加藤 のぞみ Nozomi KATO -Mezzo soprano-



神奈川県出身。東京芸術大学卒業。安宅賞、松田トシ賞、アカンサス賞、同声会賞を受賞し、同声会新人演奏会、第60回読売新人演奏会出演。同大学院修士課程オペラ専攻を大学院アカンサス賞、武藤舞舞奨学金を受賞し、首席修了。第43回イタリア声楽コンコロソミラノ大賞部門第1位。2013年度明治安田クオリティオブライフ文化財団の海外音楽研修生として渡欧。パルマ国立アッリーゴ・ボイト音楽院を経て、2016年スペイン・バレンシア歌劇場Palau de les arts Reina Sofia直属の若手歌手育成プログラムCentre perfeccionament Placido Domingoに日本人で初めて合格し、2年間の研修を積む。《蝶々夫人》スズキ《ドン・カルロ》エポリ公女《コジ・ファン・トゥッテ》ドラベッラ《ノルマ》アダルゲンザ等、イタリア・スペインを中心に音楽祭や歌劇場で活躍の場を広げている。国内では《カルメン》表題役《カプレーチー家とモンテッキ家》ロメオ役、2023年9月には東京二期会オペラ劇場《ドン・カルロ》エポリ役に好評を得た。2025年ピッツバーグ（アメリカ）、バンクーバー（カナダ）にて《蝶々夫人》、イタリアのキャリア歌劇場《ラ・ファヴォリータ》レオノーラ、バーリ歌劇場《ドン・カルロ》エポリ公女で出演予定。日本では2月二期会オペラ劇場《カルメン》の表題役を予定している。スペイン在住。

後田 翔平 Shohei USHIRODA -Tenore-



愛媛県西条市出身。東京音楽大学卒業。同大学特別給付奨学生。第44回イタリア声楽コンコロソ第1位ミラノ大賞受賞。2017年度よんでん芸術文化奨励賞受賞。2018年度公益財団法人さわかみオペラ芸術振興財団イタリア留学助成金奨学生。2014年に渡伊。パルマ国立音楽院アッリーゴ・ボイトに入学。2016年にモデナ市立歌劇場研修所修了。ミレラ・フレニ女史のもと研鑽を積む。同劇場よりディプロマを授与される。2017年1月にモデナ市立歌劇場において、歌劇「ジャンニ・スキッキ」のリヌッチョ役にてデビュー後、クロアチア国立歌劇場、オリンピコ歌劇場（ヴィチエンツァ）、ブッチーニ音楽祭（トッレ・デル・ラーゴ）をはじめ様々なオペラやコンサートに出演。オペラ以外ではモナコ公国モンテカルロにおけるロッシーニ作曲「小荘麻ミサ」、イタリア・ルッカのサン・マルティーノ大聖堂におけるブッチーニ作曲「グローリア・ミサ」をはじめ、オーストリア、クロアチア、スイス、トルコ、モナコ等、様々な国においてソリストとして出演を重ねている。またイタリア老舗レーベルBongiovanniのCD録音にはピッチンニ作曲、歌劇「ディドー」、アルファエノ作曲、歌劇「マドンナ・インペリア」、マスカニア作曲、歌劇「パルジエーナ」をはじめ主要な役に続けて参加。国内においては小林研一郎指揮「第九」をはじめ国内プロオーケストラと第九や宗教曲のソリストとして多数共演。Youtubeチャンネル【リリカ兄弟】においても活動中。

澤地 豪 Takeshi SAWACHI -Baritono-



東京都出身。東京音楽大学声楽専攻卒業。在学中、給費特待生奨学金を授与される。サントリーホールオペラ・アカデミー第3期修了。二期会オペラ研修所第64期マスタークラス修了、修了時に優秀賞を受賞。パルマ国立音楽院修士課程を賞賛付き満点にて修了。フェラーラ市立歌劇場研修所にて研鑽を積む。2023年パルマ王立歌劇場にて、子供の為のオペラ《ドン・ジョヴァンニ》タイトルロールにて出演。同年、ブライト歌劇場にて《ラ・ボエーム》マルチェッロ役で出演。2024年スペインのサンタンデールにて《蝶々夫人》シャープレス役で出演。また、コンサートソリストとしてもイタリア各地で演奏を行っており、パルマ・ファルネーゼ劇場にてG.マーラー作曲《さすらう若人の歌》全曲演奏し好評を博す。オペラではこれまでに《フィガロの結婚》アルマヴィーヴァ伯爵役、《ドン・ジョヴァンニ》タイトルロール、《コジ・ファン・トゥッテ》グリエルモ役、《ラ・ボエーム》マルチェッロ役、ショナール役、《ドン・パスクワレ》マラテスタ役、《電話》ベン役を演じる。その他、バッハ《マタイ受難曲》、ヘンデル《メサイア》、ベートーヴェン《交響曲第九番》、フォーレ《レクイエム》、ストラヴィンスキー《結婚》のソロを務める。現在、イタリア・パルマ在住。二期会会員。